



【小学1年生・2年生】

特選

かきごおり

城西小学校1年

徳永 明李

あか あお きいろ きれいだぞ
とけちやうぞ
はやくたべないととけちやうぞ
きーんとするぞ
それでもおいしいかきごおり

(評) なつのあつい日のかきごおりは、おいしいけれどたべるのがむずかしいですね。こおりはとけやすいし、あわててたべると、キーンとするし。大きいなかきごおりのようにすが、とてもうまく書かれています。

(彦根文芸協会 西村 和野)

特選

みどり

亀山小学校2年

田中 美結

やさしい風が
みどりをゆらしている
みどりがゆれたら
こころもゆれる
みどりは
なんてすてきだろう
みどりがゆれたら
音もゆれる

みどりは
どんなみどりだろう

(評) 夏のみずみずしいきせつを、みどりというこゝろにあらわして、きれいな詩になっていますね。すばらしい感性でとらえられて、心が洗われます。

(彦根文芸協会 西村 和野)

準特選

プール

城陽小学校1年

日夏 鳳壽

ダイビングをした
みずのなかにダイブをした
みずのなかはきらきらしている
きれいなけしきだ
あわがぷくぷくおどっている
ひかりがきらきらおどっている
プールのダイブはたのしいね

(評) のびのびと、プールの水の中をのぞいているようすが、よく伝わってきます。水の中の美しさを、ことばでうまく表わしていて、読んでいて、わくわくしてきます。

(彦根文芸協会 西村 和野)



準特選

きじと くじやく

城東小学校1年

橘

崇道

すこしにている
きじとくじやくいろは にじいろ
いっしょだね

えさは なにかな

くじやくは キヤベツ

きじは わからない

どこにいるかな

くじやくは どうぶつえん

きじは どこかな

おながしま

(評) どうぶつ園には、いろいろなどうぶつがいま

すが、きじとくじやくを比べているところがユ
ニークで、たのしい作品になっていますね。あ
れっと思ったことを、すなおにかいたいい作品
です。

(彦根文芸協会 西村 和野)

準特選

およげたよ

稲枝西小学校2年

高橋

和花

あついに プールに入った
さいしよはおよげなかつたけど
れんしゅうしたらおよげた
およげる気になつた

むずかしいと思つたけど

けっこうかんたんだった

わたしが一年生のときに

一つ年上の人に教えてもらった

今は二年生になつた

こんどはわたしが一つ年下の人に

およげかたをおしえてあげたい

(評) プールでおよげたよろこびは、わすれられま

せんね。そのよろこびを、詩にかいてくれて、
わたしたちまでよかつたとおもいます。

(彦根文芸協会 西村 和野)

準特選

チンチロリン

亀山小学校2年

田中

美結

ひこねじょうのげんきゆう園にいったら
虫の音がきこえたよ
きれいだな

もうあきなんだな

リンリン

ガチャガチャ

スイッチョン

わたしはうまおいのすきとおつた色がすき

げんきゆう園が虫の声でいっぱいだ

きつと虫たちの音がく会だね

(評) ひこねのげんきゆう園で虫の音をきくという、

いい時間でしたね。しずかに耳をすましている
ようすが伝わってきます。「虫たちの音がく会だ
ね」と思ったことが、すばらしいと思います。

(彦根文芸協会 西村 和野)

佳作

ともだち

若葉小学校1年

川上 弓芽

ほいくえんで
 はるくとえいたくとあそんで
 サッカーをしたよ
 おにごっこをしたよ
 かけっこをしたよ
 つみきをしたよ
 とつてもとつても
 たのしかったよ
 でも
 はるくんもえいたくんも
 ちがうしょうがっこうにいったよ
 はるくとえいたくんに
 あいたいな



佳作

ゆき

若葉小学校1年

権代 優紗

ゆきがふって うれしいな
 きれいだな
 そとにでて ゆきあそび
 たのしいな
 ゆきがつせんに ゆきのすべりだい
 スキーもやりたいな
 てぶくろ くつした ブーツをはいて
 そとにでて
 かまくらつくって
 ひとやすみ
 つぎはかまくらつなぐ
 ゆきのトンネルつくつちやお
 ドアをつけたいけれど
 あけしめしたら
 こわれそう
 むずかしいな ゆきのドア

佳作

はるが きたら

城東小学校1年

将亦 結菜

はるがきたら
 一ねんせいは 二ねんせい
 二ねんせいは 三ねんせい
 はるがきたら
 四ねんせいは大きくなる
 いっぱい大きくなってる
 もうおとなになる
 はるがきたら
 大きくなるよ
 おじいちゃん おばあちゃん
 また はるがきたら
 あかちゃんがうまれて
 らいねんも
 またはるがきたら
 あたらしいはる

佳作

パワフルシヨベルカー

稲枝東小学校2年

日下

唯真

ぼくのうんどう場

ガラツ ガシヤツ

ドシン ドシユー

ピーピー ガラー

シユーシユー

ガガーガガー

シヨベルカーとトラック

すごい力で

石とすなをもちあげるよ

ゆうぐも らくらくもちあげる

あたらしいうんどう場

どうなるんだろう

たのしみだな

すごいパワフルシヨベルカー

たのしみにまってるね

佳作

かき

金城小学校2年

丸山

晃生

かきが

木にぶらさがっていた

てつぼうするみたいに

ぶらさがっていた

秋だ！

佳作

おめんみたいなのはっぱ

金城小学校2年

北川

茉莉香

おめんみたいなのはっぱ

だれがはめるのかな？

鳥さんかな？

うさぎさんかな？

りすさんかな？

だれがはめるんだろう？

きになるな

入選

コスモス

若葉小学校1年

島村

日和

コスモスは きれいだな

ピンクやしろで いっぱいだ

はなたばにして

かざるのもいいかも

けど つんだら

せつかくのきれいな

はながかれちやうよ

きれいだな きれいだな

コスモスはきれいだな

やっぱり うえたところにおいておくのが

いちばんいいね

さわったかんじは

かみのようにぺらぺらだ

においはほんとにさわやかだ

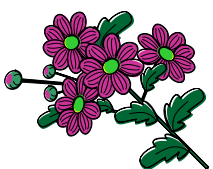
そうだ つんで

みずのはいったかびんにいれたらいいんだね

おもいつかなかった

じゃあ そうしておこうかな

それでは いってきまーす！



入選

ぼった

若葉小学校1年

堀川 はな

ぼったは すいすいとぶ
 とつてもはやいよ
 つかまえようとおもったら
 かえるがいておどろいた
 でもでも こんどこそはつかまえられた
 とつてもとつても とぶのがはやい
 かえるもおどろいた
 ぼったをかおうとおもつても
 なんだか ちよつとかわいそう
 でもでも かいいたいな
 どうしよう
 どうしようかな
 そうだ いつもおせわをすればいいのか！
 でも…たべものはなにを
 たべるのかな
 むしかごはあるんだけど…
 そうだ！
 ずかんをみればいいんだ！

入選

さくらの木

城東小学校1年

藤野 秀和

さくらの木がはえたらいいな
 はえたら うれしいな
 そうおもったら はえるのかな
 さいてほしいな さくらの木
 さくらの木 さいてうれしいな
 でも またはっぱなんだな
 ずっと さくらの木だったらいいな
 でもやっぱり
 さいごは はっぱになるんだね
 さくらの木は もうかれた
 でも またはえるのだな
 そうしんじていたら
 きつと またはえるんだな
 さくらの木 またさいてね
 おねがい

入選

あかちゃん

若葉小学校1年

井口 湊統

いま0さいのあかちゃん
 おんなだけど おとこみたいなんだ
 でも かわいくて
 ちっちゃいスカートはいてるよ
 ぼくがほんをよんだら
 めちやくちやわらうんだ
 ぼくのほうをみて
 すぐにわらうんだ
 なぜ おんなのこなのにおとこみたいかというとかみのけがみじかいし
 かがおとおとこみたいだから
 よんだほんのだいめいは
 「がたんごどん」
 ぼくがちいさいころみてたやつなんだ



入選

あきになつたら なつたら

城東小学校1年

ロイ 友貴

あきになつたら
どんぐりおちて
どんぐりごまがつくれるよ
まつぼっくりで
まつぼっくりつりができるよ
あきがきたから
おちばやもみじがひろえる
もつともつとつくつて
まわしたいな
どんぐりごま



入選

音楽会

稲枝東小学校2年

酒井 鞠奈

もうすぐ学校の音楽会
たくさんたくさん
見に来るな
たくさんれんしゅうしたよ
まちがえないでできるかな
きれいなこえでうたえるかな
リズムにのってできるかな
ドキドキ
ワクワク
音楽会
たくさんのおきやくさんの前で
大せいこうだといいな

入選

秋のはつぱ

金城小学校2年

齋藤 心優

いちようやもみじ
きれいなはつぱ
秋の風にゆらされて
きれいにどんどんちってゆく

入選

あかるい秋

金城小学校2年

江波 真瑚

秋はあかるい
すずしいな
とんぽに
夕日
やっぱり
秋はあかるいな

入選

どんぐりのぼうし

金城小学校2年

緒方

美月

どんぐりぼうし
みどりのどんぐりのときは
ちやんとみんな
ぼうしをかぶっている
でも
ちやいろくなつて
じめんにおちると
ぼうしが
どっかいつちやつた
どうしよう



入選

いちよう

金城小学校2年

高山

悠太

いちようは
あきにしかない
とくべつなきいろいはつば
いちようは
ぎんなんの木でもある
いちようは
きいろい
たいようのような
たからもの



【小学3年生・4年生】

特 選

秋がきた

城南小学校 4年

幸重

季空

どんぐりや松ぼっくり
 たくさんの木の实や葉っぱが
 「ぼくを見て」と
 われさきに木からおりてくる

木々の間からふり注ぐ日差しが
 あっちこっちに
 おり立った
 彼らに当たるスポットライト

風にゆれておどる彼らを
 ぼくははく手しておうえんした

(評) 木の实や葉っぱが『ぼくを見て』と／われさ

きに木からおりてくる」「風にゆれておどる彼
 を／ぼくははく手しておうえんした」とまるで
 親しい友達のように心を通わせています。それ
 を感じたままの言葉で生き生きと表現している
 作者のとらえ方に感心しました。

(彦根文芸協会 谷口 明美)

特 選

石

城東小学校 3年

東川

拓翔

小さい石をふむと
 小さい石がしゃべり出す
 「ジャリジャリジャリ」と
 しゃべり出す
 ないてるの？
 おこってるの？
 ぼくにはわからない
 友だちと
 ドッジボール
 おにごっこ
 楽しそう
 ぼくも友だちとドッジボール

(評) 小石をふんだ時の音を「しゃべり出す」と感

じとり、「ないてるの？ おこってるの？」と小
 石と友だちになって語りかけている作者のやさ
 しさが伝わって来ます。よい詩は、心をかよわ
 せるところから生まれるのですね。

(彦根文芸協会 谷口 明美)

準特選

お母さんあそぼう

金城小学校 3年

若林

眞悟

おかあさんあそぼう
 ちよつと待って 今せんたくしてるから
 おかあさんあそぼう
 ちよつと待って 今そうじしてるから
 おかあさんあそぼう
 ちよつと待って 今仕事してるから
 おかあさんあそぼう
 ちよつと待って 今りょうりしてるから
 おかあさんあそぼう
 ええよあそぼう
 やったー気付いたら 五時
 え、一時間まるまるあそべる
 おかあさんやること早くしてくれたんや
 ぼくは おかあさんとあそべる時間が
 一番しあわせです

(評) 「おかあさんあそぼう」とくり返しきそいかけ

る作者と「今 ○○してるから」と断わる忙し
 いお母さんとの思いと言葉のやりとりが、リズ
 ミカルにおもしろく表現されています。「ええよ
 「やったー」と喜び合う二人の姿が、目のあた
 りに浮かんで来ます。

(彦根文芸協会 谷口 明美)

準特選

きれいな花

城西小学校 3年

瀧波 はるか

先生が新しい花を
教室にかざった
きれいだな
ゆらゆらゆれて
きれいだな
風がピューー
ゆらゆら
またゆれた
朝はずっと
ゆらゆらゆれていた
屋もずっと
ゆらゆらゆれていた
さようなら
学校から帰る時間
お花さん
さようなら
あ またゆれた
ゆらゆら
ゆらゆら

(評) 先生が教室にかざった花の美しさに心をひかれた作者は、「またゆれた」と風が吹いた時も、朝も昼も、心を寄せ続けています。だから、「さようなら」と声をかけると、ゆれて「さようなら」とこたえてくれたんですね。

(彦根文芸協会 谷口 明美)

準特選

いたずら子ねこ

城東小学校 4年

鉄石 亜沙美

わたしのひろった子ねこ
まだ名前がない子ねこ
とってもいたずら好きな子ねこ
いたずらで悪い子だから
ひろわないほうがよかったかな
名前もつけないほうがいいかな
それともとってもかわいいから
ひろってよかったかな
名前もつけたほうがいいかな
そうしてなんでもしてあげたら
いい子になるかな
なったらいいな
うれしいな

(評) ひろって来た「いたずら子ねこ」に、作者は「ひろわないほうがよかったかな」「ひろってよかったかな」とまよっています。「名前をつけて、なんでもしてあげたら、いい子になるかな」という言葉に作者のやさしさがこめられていて安心しました。

(彦根文芸協会 谷口 明美)

準特選

ごはんだよ

稲枝東小学校 4年

山田 萌夏

せみさん
「ミンミンミン」と
お昼の時間にないている
「ごはんだよ」と
知らせてくれている
わたしは心の中でこう言った
「教えてくれてありがとう」
「おさきにごはんをいただきます」
「ぼくもたべたい」
せみが言う

(評) 「ミンミン」と鳴くせみの声を友だちの言葉のように「ごはんだよ」と聞きとっています。「教えてくれてありがとう」などと、せみと対話できる作者の広くあたたかい心が伝わってきて、思わずほほえんでしまいます。

(彦根文芸協会 谷口 明美)



ついたうそ

城東小学校 4年

田中 美希

しまった しまった 言ってしまった
ついついうそをついてしまった

だって 自まんしたかったんだ
だって とてもうらやましかった

だけどうそをついたって
ちつとも まったくうれしくない

心の中でじつと考え
そしてついに決意した

友達の前へ立ち言った

「ごめん さっきのうそなんだ」

(評) 友だちに「うそをついてしまった」自分のこ

とを「だって 自まんしたかったんだ」「だって

とてもうらやましかった」「だけど ちつともう

れしくない」と、心の中をすなおに表現してい

るところがいいですね。

(彦根文芸協会 谷口 明美)

佳作

こがらしと落ち葉

佐和山小学校 4年

山田 幹太

こがらしが
落ち葉とけんかした
ビュービュー

バサバサ

落ち葉が負けた

佳作

ねことおちば

城東小学校 3年

山田 瑚雪

ねことおちばが遊んでる

ねこはおちばをせなかにのせて

今日のさんぽにでかけていった

また次の日は ねこがおちばと

じゃれあって遊んでる

また次の日は ねことしゃべっている

なにをしゃべっているだろう？

また次の日もまた次の日も遊んでる

ねことおちばはとつてもとつても

なかよしだ

佳作

本のお仕事

城南小学校 3年

山口 桜都

図書館へ本をかりに来たよ
図書館は本のホテルみたいだね
本はぐっすりねているよ

わたしが本を開くと起きるよ

起きたらお仕事始めるよ

お話を教えてくれるんだ

本はがんばってるんだね

読み終わったらまたねちやう

お仕事おつかれさまでした

わたしは本が大すきだよ



ぶらんこと おち葉

城東小学校3年

北川 那奈

ぶらんこはそよ風でふかれると
ギーコンギーコンとゆれている
しゃべっているような大きな音
わたしはびっくりしたんだよ

おち葉がそよ風でふかれると
ぶらんこの上につてきた
おち葉といっしょにこいでると
いつの間になかなかよくなっちゃった
そよ風が止まったらしずかになつた
また二人で遊ぼうね
そよ風さん風ふいて：



なめくじ

城東小学校4年

吉田 柚葉

毎日毎日歩いている
ゆっくりゆっくり歩いている
のろーくおそーくゆっくりと
ぼくはなめくじ塩には弱い

まっ黒なぼくの心には
バカンスだけが写ってる
けれどもそれは夢の中
ぼくはなめくじ塩には弱い

真っ赤な太陽暑すぎて
ぼくはしなうってしわしわだ
そんな所にごちそういっぱい
ぼくはなめくじ不死身のなめくじ

バースデーケーキはどこいった？

城東小学校4年

永田 智之

今日はぼくのたん生日
さあパーティーの始まりだ
ところがここで大事件
バースデーケーキはどこいった？
ケーキ探しに出発だ！
ジャングル お山 海のそこ
それでもやっぱり見つからない

帰って開けた冷ぞうこ
ケーキはそこにありました
さあお祝いだお祝いだ
今度こそパーティーの始まりだ



入選

オーストラリアの友だち

城西小学校3年

小林 楽

友だちになれるかな
友だちになれるかな
かんげい会でカロムであそんで
わらってわらってうれしかった
ひこにやんのぬり絵と
西丸くんのぬり絵をみせると
どっちもほしいと言ってくれて
うれしかった
グッドモーニングと
言ってくれてうれしかった

入選

もみじといちよう

佐和山小学校4年

宮里 紗佑未

もみじといちようが遊んでる
ジャンケンポン
もみじがパー
いちようがチョコキ
いちようが勝った
もみじは シクシクないている
いちようが サワサワなぐさめた

入選

落ち葉

城東小学校4年

辰野 知里

ゆらゆらしながら落ちて来た
みんなはそれに気づかない
わたしはそれをひろってみた
よくみたらそれは落ち葉だった
春とちがって色がちがう
春とちがって穴があいている
私は落ち葉を地面に置いた

ガサガサ音たて歩く道
私はそれに気づいたよ
私は顔を近づけた
モミジやイチョウいろんな落ち葉
春とちがって黄色い色
春とちがって赤い色
私は音を聞きながら歩きつづけた
楽しいな 楽しいな
落ち葉のじゆうたんきれいだな

入選

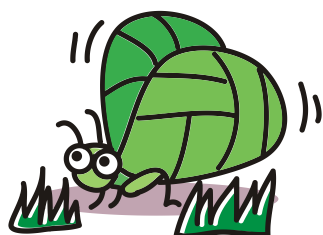
月とすず虫

城南小学校4年

齋藤 亮太

すず虫が月に言った
「きみはきれいだけど
ぼくはきれいじゃない
きみはいいなあ」
すると月もすず虫に言った
「きみはきれいな音が
出せるじゃないか
ぼくは音は出せないよ
おたがいいところがあるじゃないか」

詩



詩
入 選

けしき

城東小学校 3年

河分 小春

通学路

いつもと同じ道であきちやった

でもね ある日

いつもの通学路なのに

葉っぱやどんぐり落ちていて

けしきが少しちがったの

びっくりして

「なんでだろう」

とつぶやくと

風が教えてくれたんだ

「小さなあの子がやったのよ」って

入 選

リレー

城南小学校 4年

勝木 藍

四年生のリレーが始まった

わたしはすぐくきんちようした

わたしはラストから三番目

わたしの出番が来た

赤組と同時にバトンをもらった

赤組の男の子はすぐく速い子だ

「ぬかされたらどうしよう」

と 思ったけれど その気持ちよりも

「前の子をぬかさう」

という気持ちの方が強かった

赤組の男の子とははなれて

前に走っていた緑組の男の子に近づいた

音楽やおうえんの声は

なにも耳に入ってこなかった

そして 緑組の男の子をぬかした

次の子に一番にバトンをわたせた

わたしたしゅん間に

いろんな音や声が聞こえた

列にならぶと 同じチームの子に

「速かったね」

と 言われてとてもうれしかったです

入 選

木はおしゃれ

城南小学校 3年

山口 桜都

春はさくら色

花びらひらひらイヤリング

夏は緑いっぱい

せみの音楽

秋はもみじやいちよう

どんぐりのネックレス

冬はまっ白

きせつでかわって

おしゃれだね



入選

白鳥と黒鳥

城西小学校3年

房野

ななみ

いつも おほりで泳いでいる
白鳥と黒鳥
いつも 手をたたくとついてくる
白鳥と黒鳥
いつも 一人で泳いでる
白鳥と黒鳥
でも 二人で泳ぐときもある
白鳥と黒鳥
知りたいことがたくさんある
白鳥と黒鳥
わたしは知りたい
ごはんは何をたべているのか
ねるのはいつなのか
白鳥と黒鳥のこともっとたくさん
知りたいな

入選

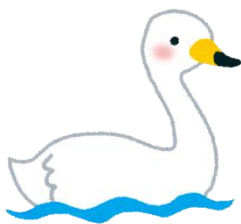
まる

金城小学校3年

山本

真由香

まるまるまる
とけい
とけいは じかんをおしえるまる
まるまるまる
ぼうし
ぼうしは たいようから
あたまをまもってくれるまる
まるまるまる
ボタン
ボタンは ふくをとめるときにつかうまる
まるまるまるまる
まるはどこにあるかな？



【小学5年生・6年生】

特 選

鏡に映った

城東小学校 6年

三井 卓巳

洗面台の大きな鏡に映った私
 左と右が逆になるように 悲しさもうれしさに
 ならないかな

化粧用の鏡に映った私
 今日の私は一段と輝いている
 いつもそうだったら いいのね

玄関の鏡に映った私
 鏡に向かってごあいさつ
 心がはずむと体もはずむ
 心がしずむと体もしずむ

洗面台の大きな鏡に映った私
 体の傷は映せても
 心の傷は映せない

(評) 日常、鏡は必要な所に置かれています。その時々、鏡の思いを持って映りかわっていく自分の姿を心豊かに繊細にみつめた作品です。輝いて、はずんで、しずんで、それでもありのままを描き出してみようとする作者の姿勢が素敵です。

(彦根文芸協会 やまかみ まさよ)

特 選

おじいちゃんとの思い出

城東小学校 5年

安齋 来花

びわこに行ったら思い出す
 おじいちゃんと白鳥見たこと
 アイスを見たら思い出す

いっしょにアイス食べたこと
 公園で遊んでいたら思い出す
 いっしょにいっぱい遊んだこと
 幼稚園を見たら思い出す
 よく迎えに来てくれたこと

おじいちゃんとおじいちゃんとの思い出
 たっくさんの思い出おいてきた
 たのしかったうれしかった
 いっしょにいっぱいすごせて
 もうつくれない

おじいちゃんとの思い出
 けど だいじょうぶ
 もう数えきれない 星の数以上の
 思い出があるから

(評) どこへ行く時も、どんな時も、何かをしている時も、思い出すのはいつも一緒にいてくれたおじいちゃん。その事が作者の心やさしいことば使用で素直に表現されていて、読み手にきゅんと伝わってきます。

(彦根文芸協会 やまかみ まさよ)

準特選

組体操

城南小学校 6年

藤田 彩那

きれいに合った組体操
 ピタッと止まった組体操

指先までのびていた組体操の二人技
 かた車
 さぼてん
 ほ助とう立
 せい いっぱい取り組んだ
 きれいに決まった三人技・六人技
 仲間と協力し
 完成した

そして最後はピラミッド
 いろいろ不安があった
 けど
 成功したら仲間の思いに気付いた

くいのない
 最後の運動会となった

(評) 小学校最後の思い出となった組体操の一つ一つの技が、一行ずつに緊張感をともなうて表現されています。その結果に「仲間の思いに気付いた」作者の達成感が、最高の感動として伝わってくる作品です。

(彦根文芸協会 やまかみ まさよ)

準特選

調べもの

城北小学校 6年

鯖戸 杏奈

悲しみとは何ですか？
 つらく 悲しいことですか？
 憎しみとは何ですか？
 人を憎いと思うことですか？
 喜びとは何ですか？
 うれしいと思うことですか？
 これはすべて
 人というものの感情ですか？
 人のぬくもりとは何ですか？
 その人のあたたかさですか？
 人の心とは何ですか？
 人が持っている 感じたり考えたりする
 働きのことですか？
 人の命とは何ですか？
 それは：一人一つしかない
 大切な物ですか？
 私たちは
 心や感情そして命があるからこそ
 生きているのです

(評) 人の心の中には不思議です。「何ですか？」という質問には、きちんと答えの出ることもあるでしょうが、もう少し大人になれば判ることもあります。詩的な好奇心を持ち、書き続けてください。

(彦根文芸協会 やまかみ まさよ)

準特選

ゆったり ゆったり

稲枝東小学校 6年

室井 宏太

てっぺんに
 青空
 向こうに
 あした
 ぼくたち乗せて
 地球は
 ゆったり散歩

(評) 「文は人なり」ということばがあります。文章は、筆者の人物を表すものだという意味です。この詩の場合、ことばは少なくとも、作者のイメージ力は果てしなく広がっています。現実には厳しいけれど、「ゆったり」が続きますように。

(彦根文芸協会 やまかみ まさよ)



準特選

家族

城西小学校 5年

上田 愛音

家族ってすごいんだよ
 うれしいことがあつたとき
 家族にはなすと よろこびがひやくばいになる
 かなしいことがあつたとき
 家族にはなすと こころづよくなれる
 くやしいことがあつたとき
 家族にはなすと 「つぎこそは」とおもえる
 うまくいかなかったことがあつたとき
 家族にはなすと まえむきになれる
 できるようになったとき
 家族にはなすと
 ちがうことにチャレンジしようとおもえる
 だから家族ってすごいんだよ

(評) どんな事があっても励まし、喜んでくれ、次のチャレンジを教えてくれる素敵な「家族」であることを素直な気持ちで表現できています。自分のことを思ってくれる家族の大切さが、読者にも、伝わっていきますように。

(彦根文芸協会 やまかみ まさよ)

私の宝物

金城小学校5年

横山 千尋

私の宝物
愛犬なんだ
犬つておもしろい
すやすやねむる
ねている顔見れば
とっても気持ち良さそう
なんだか人間と似てる
私の宝物
今も気持ち良さそうに
ねむってる

(評) 「宝物」を見つめる作者のまなざしには、「ねている顔」が「人間と似ている」という大人っぽいところもあります。大人も子どもも、より身近なモノを愛することで、大切な宝物を持つことができることを教えられた作品です。

(彦根文芸協会 やまかみ まさよ)

佳作

ひまわり畑

佐和山小学校6年

宮地 杏奈

ふと通った 道先に
たくさんの ひまわりが 咲いていた
大中小 さまざま
あちこち向いて
まるで お話しているようだった

急に 辺り一面
ぱあーっと 明るくなり
心が晴れて 世界が広がった

いっぱい いっぱい パワーをもらった
お返しに 明日もがんばって
咲いてねと 微笑んだ

バイバイ するのが おしくって
何度も 何度も 振り返った

秋風に ゆらゆら ゆれて
今度は さみしそうだっただ

もう一度 振り返ると
黄金色に 光輝いて 見えた

佳作

四季の音

城東小学校6年

本間 ニツキ

——春のそよ風が まどをたたく音がする まどを開けたら花たちが 春の歌をうたっている 新たな命が生まれた音が聞こえてくる 桜の木が やさしい心を花びらに乗せてとどけていく

——夏のせみが 私を目覚めさせる 南風が木を包んでいく 若葉たちが 元気にゆれる音がする 海からは 悲しい波の音 麦わらぼうしのリボンがなびく

——秋の空気は 秋色に染まって 静まりかえる 紅葉が秋の美しさを無言で告げている どんぐりが 木から旅立つ音 秋の味かくの音が耳に入ってくる

——冬の北風が 口ぶえを吹いている 空からは 温かい雪がまいおる だんろには 灯が 灯る音 外から冬を楽しむ音がする 子どもたちが 遊んでいる声だ

佳作

コスモス

城西小学校 6年

一谷 観羽

もみじやいちようは知っても地味な子が一人
 それはコスモス
 コマーシャルで
 もみじはたくさんでてる
 他の果物 野菜 きのもね
 私みたいになちっぽけなコスモスよりも人気だし
 みんな特ちょうもっている
 ちっぽけなコスモス
 でもね
 コスモスおだやかできれいじゃないか
 いろんないろのコスモスたちは
 花畑でゆれている
 風になびいたコスモスは
 ほんとにきれいでぜっけいだ
 私みたいになちっぽけなコスモスでも
 私のたのしみ
 あきのたのしみ
 風になびいてゆれている
 きれいなコスモス
 きれいなコスモス

佳作

バトン

城南小学校 6年

児嶋 大空

バトンが
 手の平にわたり
 また次の
 手の平にわたる
 そのバトンが
 また次の
 手の平にわたる
 そして最後は
 そのバトンと共に
 ゴールテープを切る
 その喜びは
 クラスのすばらしい
 思い出になる



佳作

くもくもくも

城南小学校 5年

岡田 みのり

くもくもくも
 くもくもくも 春の雲
 かすみ雲は 花よめさん
 白いボールが ひらひらひら
 くもくもくも 夏の雲
 入道雲は マツチョだよ
 うでの筋肉 ぽこむくぽこむく
 くもくもくも 秋の雲
 いわし雲は 仲がいい
 空の海で ぺちやくちやぺちやくちや
 くもくもくも 冬の雲
 なまり雲は 製造機
 わた雪つくる ふわふわふわ

大切な友達

城東小学校5年

大平 萌々子

私には たくさん大切な友達がいる
友だちは
うれしい時 いっしょに喜び
悲しい時
いっしょに悲しむことができる
そんな友達は
私の大切な宝物
どんな時だって
そばにいてくれる
いっしょに笑ったり 泣いたり
たくさん 思い出がある中
けんかをしてしまうこともある
でも仲なおりができる
私は そんな友達と
ずっと友達でありたい

太陽

城西小学校5年

古川 和愛

ぼくは太陽
みんなに光をとどけてるんだ
でも一人 ぼくより強いやつがいる
それは雲！
雲がぼくをかくすと
みんなに光をとどけられない
そんな時は雲の後ろで泣いている
雲はそんなぼくを見て
どっちが強いかたたかおう！
と言ってきた
ぼくは
いいよと返事した
絶対絶対勝ってやる

たからもの

城東小学校5年

福原 恵実

これはわたしのたからばこ
心の中のたからばこ
わたしのたからもの つまってる
わたしのたからもの
どんなにあたたかいストーブよりも
あたたかい 家族の笑顔
家中にひびきわたる 笑い声
にと見える 白い歯
わたしのたからもの他にもいっぱい
みんなの手のひらのぬくもり
はげましのことば
これはわたしのたからばこ
心の中のたからばこ
すてきなたからものでいっぱい

入選

四季

城東小学校 6年

村木 春桜

春 目覚めの季節
 目覚めはじめた者たちが
 甘い香りをただよわせながら
 夏に向けての支度をする

夏 希望の季節
 支度を終えた者たちが
 緑の風を吹かせながら
 草原の上でおどる

秋 実りの季節
 おどりつかれた者たちが
 いろんなものを実らせる

冬 ねむりの季節
 全てを実らせた者たちが
 雪という布団につつまれてねむる

そしてまた 春が来る

入選

自分

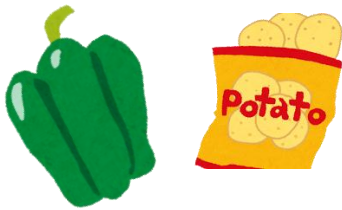
稲枝西小学校 6年

木村 真子

私の好きなもの お菓子
 私のきらいなもの ピーマン
 私の得意なこと 走ること
 私の苦手なこと 算数の勉強

私には たくさんの個性がある
 友達とちがうたくさんの個性がある

その個性を大事にする自分
 みんなとちがう自分が良いんだ



入選

生きる源

稲枝西小学校 6年

中山 静花

私は
 上空百メートルから見る空を
 海底の空を
 南極の空を
 世界の様々な空を
 見た事がない
 けれど

私は
 グラデーションのかかる空を
 朝日と太陽と夕日と月と星と雲と生きる空を
 ねそべるときに見える空を
 見た事がある
 目にうかぶ
 だから

きょうも
 あしたも
 あさつても
 生きるちからを もちつづける

本当の強さ・いじめを止める

城北小学校 6年

阿 萬
文 音

本当の強さって何だと思う？
力が強いこと？
それも強さのうちの一つだけど
本当の強さはね 一人一人の勇気だよ
だって どれだけ力が強くても
立ち向かう勇気が無ければ
力が強いことに意味はない
ほんの少しの勇気を持って
そうすればいじめだって
止められる

組体操

城南小学校 6年

川 崎
翼

頭を下げると思い出す
失敗したときを思い出す
曲がなり始める
もうすぐ始まる組体操
横に並ぶと思いつく
失敗したときを思い出す
二曲目がなり始める
仲間を信じて始まった
並び順が変わると思い出す
技のこわさを思い出す
三曲目がなり始める
終わりよければ全てよし

かぞくとは

稲枝東小学校 6年

船 津
琴 香

かぞくとは
きつてもきれない
「いと」であり
すぐにきられる
「いと」である
かぞくとは
あたたかくもえる
「ほのお」であり
やきはらえるほどの
「ほのお」である
ゆえに
かぞくとは
「一生の友達」



入選

組体操

城南小学校 6年

盛田 夏海

たてひぎで
土を見て
心と体の準備をすませ
曲がなり
つま先にグツと力を入れて
きんちようのとうげを乗りこえる
乗りこえた先の
感動は どれほどだろう
石に気をつけ みんなと集合
笛の音 女子全員が
ひきしまる
ピラミッド 辛くても
たえぬこう



入選

私の町は

城東小学校 5年

杉本 心都

わたしの町は
子どもが少ない
わたしの町は
おばあちゃんと おじいちゃんが多い
けど みんなやさしい
わたしの町は
そうじをしている
だから 町が助かる
わたしの町は
山や花や草が多くて気持ちいい
だから 虫たちもいっぱいいて夜にはきれいな
声で鳴く
私はこんな町
私は好き



入選

命

平田小学校 5年

佐野 はなり

雨がザアザアふった きのおう
うちのトトは死にました
学校から帰ってきた
わたし
外で雨に当たりながら
妹が泣いていました
雨があがってカラカラした 今日
外で「ピヨピヨ」と声が
きこえました
いそいで行くと
トトの子が生まれていました
妹は なみだをふいて
ニコツとしました
一つの命が亡くなると
また一つの命が産まれる
また一つの命が亡くなると
また一つの命が産まれる……
命は
まわっているようだ

涙と笑顔

城東小学校 5年

高橋 聖奈也

ある日私泣いたよ
みんななぐさめてくれたよ
友だちって大事だなと思ったよ

ある日私笑ったよ
みんな笑ってたよ
すごく楽しかったよ

ある日私思ったよ
「涙と笑顔って大切だな」と思ったよ
みんなそう思うっていつてたよ

そのとき涙と笑顔で
友だちとつながったような気がしたよ

家ぞく

平田小学校 5年

吉岡 せり

ははは
いつもあたたかな手でつつんでくれる
ちちは
いつもあそんでくれる
二人はけんかをするけれど
ふたたび仲をとりもどす
こまったときは二人がかけてくれる
できないことは きょうりよくするよ

お兄ちゃんはやさしいよ
でも
いっぱいけんかをするよ
だけど
ふたたび仲をとりもどすよ

おじいちゃんとおばあちゃんは
やさしいよ
ひつじの毛くらいやさしいよ
ときどきはんこうするけど
ずっとだいいじにしているよ
お金でかえない家ぞくだもん

自然は財産

亀山小学校 5年

岡田 一太

あの山の中に
虫や葉っぱや木や土や川や石がある
人はそれを切ったりくずしたりとったり
うめたりしている
みんなはそういうことをしている
しかしそれは地球の財産だ



入選

いじめといのち

平田小学校5年

中嶋

進

いじめ
いのち
同じ三文字の言葉だけど
意味はちがう

いじめといえは
悪いことがうかぶ
いのちといえは
生きているということがうかぶ

同じ三文字の言葉だけど
意味はちがう
このことばのちがいを
考えよう

入選

お母さんの手

城東小学校5年

大前

恵美

お母さんの手はあたたかい
なんだか心がホッとして
なんだかやさしい気もちになって
すきとおるような感じになる

空にかがやく星のように
きらきら光る流れ星のように
なんだかすてきな気もちになる

水面にうかぶ葉のように
ひらひらまう花びらのように
なんだかふしぎな気もちになる

「やっぱりお母さんの手はあたたかいな」



入選

いつか世界は…

城東小学校5年

三須

麻友香

世界はまあるい奇せきです
どんなにくらしが変わっても
どんなに国が戦っても
世界はまあるいままである

国と国が戦って
どっちが勝っても負けちゃっても
何も変わらん 世界だから

一つの世界だから
勇気と平和とやさしさを

いつか世界は一つになりたい

【中学生】

特 選

未 来

東 中 学 校 3 年

田 島

美 帆

僕ボクの心の中はからっぽだ
 ボクには未来なんてない
 そう思ってる
 でもそれは
 本当のボクじゃない
 本当のボクは心の底で眠っている
 ボクはそれを起こそうとしなかった
 すると
 心の底から声がした
 “ 未来だってあるはず
 それは自分で創っていけばいい”と
 その日からボクは今のボクを信じて
 進み続ける

ボクの心の中には
 ボクを支配する“何か”がいる
 そのおくには本当のボクがいる
 本当のボクは
 もうすこし手をのばせば届くはず
 けれど
 ボクを支配する何かがいて

手が届かない
 でもそれは
 ボク自身の心がボクを支配するのだ
 すると
 本当のボクから声がした
 “ やればなんとかなるよ
 それは自分が創っていけばいい
 いったって君には未来が広がっている”と
 その日からボクは未来のボクを信じて
 歩み続ける

(評) 「心の深いところにある本当のボクは、自分
 が創るものなのだ」と気づくまでを、存在のよ
 り深い場所へ旅をするように立体的なストーリ
 ーに描いていて、見事です。悩みながら新しい
 発見をしていく先にある未来は、きつと輝きに
 つながることでしょう。

(彦根文芸協会 尾崎 与里子)

準特選

モミジ

西 中 学 校 1 年

陌 間

紗 佳

私は秋に恋をする
 黄色く染まるイチョウのように
 橙に染まる夕暮れのように
 紅色に染まるあなたのほおのように
 いつまでも染まっていたいこの恋は
 冬になるまでに散ってしまうわ
 だけど春には芽生えるの
 夏なんてすぐに追いこして
 期間限定の恋をしてみせるから
 今日もあなたに染まってく
 私は今日も恋するモミジ

(評) 恋をモミジに置き換えるように、何かに置き
 換えて書く方法を、メタファー(暗喩、隠喩法)
 といい、直喩より想像の世界がふくらむために、
 詩ではよく使います。この作品ではメタファー
 を巧みに使って、大人っぽい、活き活きした詩
 の世界を繰りひろげています。

(彦根文芸協会 尾崎 与里子)

佳作

幸せの結晶

南中学校 2年

角田

英謙

幸せってなんだろう

人の幸せの中

色々な形がある

元形など見えぬもの

人の辛さの中

辛い物など

生きるからありける

人の幸せになる事

辛さがたくさん集まり

幸せへと結晶になる

人から辛さがないと

永遠に幸せが

来る事などない

幸せの結晶

辛さと平行しておこる

幸せとはそのような魅

入選

高校

西中学校 3年

中村

瑠樹

決まらない

決まらない

高校は

どこ行こう

県立 私立

どっちにしよう

滋賀の中だけでも

いっぱいだ

決まらない

高校説明会行きながら

夏のあいだにしぼらなきや

でも

起きる時間

遅刻

テストの点数など

だから

自分で選び

自分で決める

それが

高校に行く

第一歩ね

入選

光

西中学校 2年

安達

寛人

光は僕をてらす

みんなをてらす

光はみんなにとつて輝き

輝きは希望

輝きが消えると暗くなる

暗くなるとみんなが暗くなる

だから光は必要だ

光は僕の心をあたたくしてくれ

光はなくてはならないそんざいだ



【総評】

小学低学年では、おどろいたこと、見つけたこと、心に思ったことなどを上手に書こうとしないで、そのままなおに書きましよう。じょうず

中学年の作品には、書きたいことを人間のように感じとり、心を通わせながら自分の言葉で生き生きと表現できた作品がいくつかあり、うれしく、たのしく思いました。

高学年のみなさんは、書きたいことの内側や自分の心にも立ち入りながら、自分らしいとらえ方、言葉の表現を見つけていきましよう。

中学生部門は応募数が昨年より倍増し、作品の内容も多彩で読み応えがあり、嬉しいびつくりポン！でした。アニメやマンガの世界のイメージや言葉の自由さが、文学にも良い刺激を与えているのかもしれない。ただ注意してほしいのは、題名の無い作品や誤字、言葉間違い等基本的な知識不足やルール違反も多く目についたことです。どこまでも自由に、そして小さなことにも誠実に取り組んで書いていきましょう。

(彦根文芸協会 谷口 明美)

(彦根文芸協会 尾崎 与里子)

